

ザ・サバイバル

活動

- 山岳地帯で道に迷った。メンバーで合意形成をしながらミッションをクリアし危機を脱出する。

ねらい

- 状況判断力を養う。
- 自分の意見をしっかり示す。
- メンバーの意見をしっかり聴く。
- グループで話し合い、合意形成する。
- 自分やメンバーの気持ちに気づく。

課題

- あなたたちは、山岳地帯の森林で、道に迷ってしまいました。
- 季節は秋、日中は気温が上がり、夜はかなり冷え込みます。
- あなたたちは、専門的な知識もなく、最小限の装備しか持っていません。
- 何とか全員で力を出し合って、安全な場所まで行き着かなくてはなりません。
- しかし、次から次へと生き残るために解決しなければならぬ問題が起こります。
- 知恵を結集して、この危機を脱出してください。

進め方

- ① 5人組を作る。
- ② 隊長を決める。
- ③ まず、個人でミッションの答えと理由を考える。
- ④ 次に、隊長が中心になって、チームで話し合い、答えと理由を考える。
- ⑤ 隊長がグループの答えと理由を発表する。

留意点

- あなたたちの生死がかかっています。
- 多数決やジャンケンなどで決定するのではなく、みんなで話し合う。
- 少数意見は、考え方の幅を広げるものとして、尊重する。
- それぞれのメンバーの感情やグループの働きにも十分配慮する。

ワークシート①を配布します。

ミッション 1

- ◆サバイバルの旅に出る前に、基本的なことを確認したい。

1 サバイバルの旅で、一番気をつけなければならないことは何か？

- ア. 自然の変化(天候や環境等)に注意する。
- イ. 病気やけがをしないようにする。
- ウ. 水、食料、装備や道具をしっかり管理し、団体行動を乱さないようにする。

(イ) 病気や怪我

- サバイバルで一番気をつけなければならないのが病気や怪我である。
- 自然の変化への対応や、水、装備等は、工夫すれば何とかなると思われる。
- しかし、誰かが病気や怪我をしてしまったら、あらゆる面で皆に迷惑かかってくる。
- 軽い症状の病気や小さな怪我でも、自然界の中では1日で大きな災いとなる。

ミッション 2

- ◆ 未開の山野を歩く時には驚く程体力を使う。
- ◆ このとき一番恐ろしいのは脱水症状に陥ってしまうことである。
- ◆ グループで持ち歩ける水の量も限られている。

2 脱水症状に陥らないためには、どうすればいいか

- ア. 1人、朝と夕に1カップずつ飲むなど、規則正しく水を飲むようにする。
- イ. 水は、飲み込まないで舌を湿らす程度にする。
- ウ. 飲みたい時に、飲めるだけ飲んでおく。

(ウ) 飲みたいとき

- 脱水症状を起こさないためには、自分の水を配給しないで、飲みたいと感じた時に飲めるだけ飲んでおくことが肝心である。
- 一度脱水症状に陥ってしまうと、急激に体力は衰弱し、吐き気、目まい、呼吸困難へと症状が変化し、体重の12%を失うと、死に至ると言われている。

ミッション 3

- ◆ あなたがたは、溪谷に沿って歩いていたところ、夕刻になってきました。
- ◆ これからキャンプをする場所を選ばなくてはなりません。

3 キャンプをする最善の場所はどこか



(イ) 中間の斜面

- 自然界の中では、常に不慮の事態を考慮することが大切である。
- 尾根は強風、雨等の要因にさらされやすい。
- 水辺は増水や動物による危険をはらんでいる。
- 溪谷と尾根の間の斜面の中程で、木立ちに囲まれた空間がある場所が望ましい。

ミッション 4

- ◆この地域には、野生のクマが多く生息しているようです。
- ◆クマは夜に行動して餌をとることも多いので、眠っている間に食糧を取られないようにしなければなりません。

4 クマに食糧を取られない最善の方法は何か

- ア. テントの中の真ん中あたりに置き、みんなで囲んで寝る。
- イ. たき火のそばに1mぐらいの穴を掘って、ビニール等に包んで埋めておく。
- ウ. リュックに入れ、細め枝に地面から3メートル、木の幹から1メートルぐらい離してつるす。

(ウ) 木に吊るす

- 食料は決してテントの中に置かないこと。人に危険が及んでしまう。
- また、野生動物の嗅覚は非常に鋭く、地中に食料を込めても簡単に嗅ぎつけ、掘り出してしまう。
- テントから少し離れたところにある木に吊るしておくが無難である。

ミッション 5

- ◆あなたがたは手持ちの食料がなくなりました。
- ◆何とか食料を確保するために、周囲に生えている植物を食べようと思いました。

5 食べられる植物が見分けるためには、どうすればいいか

- ア. 安全であると分かっている植物や木の実だけを取って食べる。知らないものは食べないことが鉄則である。
- イ. 有毒植物はケバケバしい色のもの、毛やトゲに覆われているものなので、これらのものを避ければ食べてよい。また、鳥や小動物が食べているものは、大体安全である。
- ウ. 多くの植物は食べられるが、下唇や舌の先で刺激がないかを試し、異常がなかったら少しずつ食べてみる。

(ア) 食べない

- 植物の多くは食べることができ、滋養にもなるが、「疑わしきは食べず」が自然界の中では鉄則である。
- 鳥や小動物の消化器は、人間のそれとは異なる。
- 毒見のベテランが安全と判断できるまでは5～8時間が必要である。

ラスト ミッション

- ◆ あなたがたは流れが急で足元が悪く、川幅が20m程度の川を歩いて渡らなくてはならなくなりました。
- ◆ 靴をしっかりと着用し、荷物を背負っています。

6 どのようにして川を渡るか。

- ア. 全員が3mの長い棒につかまり、下流に向かって渡る。
- イ. 全員が腰のあたりをロープでしっかり結び、安全を確認し合いながら渡る。
- ウ. 1人が倒れると全員が急流に流されてしまう可能性があるため、一人一人で慎重に渡る。

(ア) 棒につかまる

- 急流を渡る場合には、1人で渡るよりグループの方が流されにくく安全である。
- 急流では、ロープでつなぐと、倒れた人がロープに絡まったり、前後の人のバランスを崩したりしてしまう。
- 長い棒に全員がつかまれば、お互い同士が杖になる格好になり安定する。

ワークシート②を配布します。

ふりかえり

- 今日のワークについて。
- あなたの果たした役割について。
- 今日のワークで気づいたこと、考えたこと。